

October 2007

3号

かわせみ (日高市の鳥)

<http://www.saitama-med.ac.jp/kokusai/index.html>

埼玉医科大学

国際医療センターニュース

INTERNATIONAL MEDICAL CENTER NEWS

CONTENTS

- 2P 造血器腫瘍科のご紹介：造血器腫瘍科
- 3P 包括的がんセンターのご紹介：看護部
- 4P 病院薬剤師の業務：薬剤部
- 5P 救命救急放射線部門のご紹介：中央放射線部
- 6P 医療費控除について：総合相談センター
在宅支援サービスについて：がん相談支援センター
- 7P 皆様からのご意見と当院の対応
臨床試験支援センターのご紹介
センター長 脳・脊髄腫瘍科教授 西川 亮
- 8P 認定看護師のご紹介
認定看護師：森田公美子
認定看護師：塩井 厚子
- 9P 当センターにおける感染対策の取り組みと
バンコマイシン耐性腸球菌 (VRE) の検出について：感染対策室 室長 光武耕太郎
ロビーコンサート
- 10P インドよりの研修医師をお迎えして
心臓血管インターベンション部門教授 小宮山 伸之
- 11P 「第16回世界移植者スポーツ大会」に参加して
難治性心不全治療センター
移植コーディネーター：土屋美代子
- 12P 予約センターからのお願い
ご面会の皆様へ
交通案内

初秋のテレサホール (日高キャンパス内)

- 基本理念**：患者中心主義のもと安心して安全な満足度の高い医療の提供をし、かつ最も高度の医療水準を維持する。
- 使命**：当センターは、埼玉県全域を範囲とし、がん、心臓病に対する高度専門特殊医療に特化し、かつ高度の救命救急医療を提供する。
- 基本方針**：患者中心主義 (patient-oriented) を貫き、あらゆる面で“患者にとって便利”であることを主眼とし、患者ひとりひとりにとって最も適切な医療を提供する。

造血器腫瘍科のご紹介

造血器腫瘍科

血液疾患は赤血球が減少する貧血性疾患、白血病やリンパ腫などの造血器腫瘍、そして血小板や凝固因子の異常による出血性疾患に大きく分類されます。当科ではこれらの血液疾患の中でも特に白血病、悪性リンパ腫等の造血器腫瘍と再生不良性貧血、骨髄異形成症候群などの造血障害を中心に診療を行っています。

経験豊富な専門医がエビデンスに基づき、それぞれの患者さんの病状に合わせて治療方針を決定しています。通常の抗癌化学療法や放射線治療に加え、適応と判断された場合は骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植も行います。また、日本成人白血病研究グループ (JALSG)、成人リンパ腫治療研究会 (ALTSG)、厚生労働省科学研究費補助金・難治性疾患克服研究事業に所属し、標準的治療法の検証や新規治療法の開発にも積極的に取り組んでいます。

造血器腫瘍科の患者さんが入院するE6階病棟は無菌病棟とも呼ばれています。血液疾患の多くは免疫力が低下し易感染状態になりますが、病棟は6床の移植用無菌病室（クラス100）と、30床のクラス10,000無菌病室からなり、呼吸器感染症のリスクを最小限に抑えて治療を行えます。また低菌食の提供や滅菌水の設備が完備され、トイレも病室内にありますので、患者さんは常にきれいな環境の中で安心して入院生活を送ることができます。

私たちは患者さんの診療を行うにあたり、十分なインフォームドコンセントを行うことが必須と考えています。病棟内にはプライバシーを配慮した面談室をいくつも設けていますので、病状についてご納得いただくまでゆっくり説明をさせていただき、また患者さんやご家族のご希望もよくお聞きして治療方針を決めることができます。

当診療科の対象疾患は次のようになっております。

- ・ 貧血（再生不良性貧血・骨髄異形成症候群）
- ・ 急性白血病、慢性白血病
- ・ 骨髄増殖性疾患（真性多血症・本態性血小板血症・骨髄線維症など）
- ・ 悪性リンパ腫（ホジキン病、非ホジキンリンパ腫など）

当診療科では次のような症状を扱っております。

- ・ 健康診断で白血球、赤血球、血小板に異常がと言われた。
- ・ 顔色が青白いと言われる。
- ・ 動悸、息切れ、めまいを感じる。
- ・ リンパ節が腫れている。
- ・ あざ（紫斑）がしやすい。



病棟各所に配置された面談室



移植用病室への面会は専用コーナーから行います



移植用無菌病室



各病室内に設置されたトイレ

包括的がんセンターのご紹介

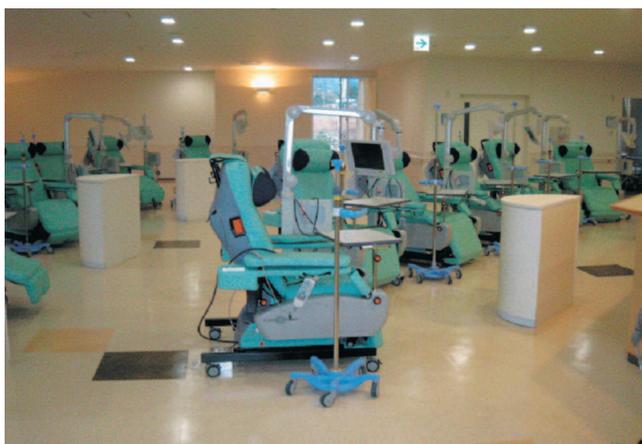
看護部

包括的がんセンター外来は、D棟2階にあります。受診される患者さんが安心して検査、治療が受けられるよう説明、指導を行ないます。また、患者さんとそのご家族の治療上の不安や悩みに対応するために「がん相談支援センター」を設置しております。



包括的がんセンター外来

E棟2階の通院治療センターは、通院しながら抗がん剤の治療や点滴、輸血などを行なうところです。リクライニングチェアやベッドでリラックスした環境の中で治療が受けられるよう配慮されています。専門看護師、認定看護師が抗がん剤投与中の観察を行なうとともに、より快適な日常生活が送れるような援助を心がけています。



通院治療センター

入院が決まりましたら、病棟コンシェルジュがお迎えに行き、病棟までご案内いたします。病室にはトイレ、洗面所、ロッカー、冷蔵庫、テレビなどが設置されております。病棟の看護師は24時間継続した看護ケアを提供させていただきます。



一般病棟（個室）

がんセンター集中治療室（ICU）は、手術後の患者さんや院内の重症患者さんを一カ所に集め、高度な患者監視装置や人工呼吸器、血液透析などの医療機器を駆使し、病気と闘っている患者さんをサポート、治療する病室です。手術後に集中治療室への入室が決まりましたら、担当看護師が病室まで説明に伺います。ご希望の患者さんには集中治療室内の見学も可能です。



集中治療室（ICU）

無菌病棟は、特別な空調設備（高性能フィルター）を使用して、きれいな空気を循環させている病棟です。抗がん剤治療や骨髄移植により、感染に対する抵抗力が低下した患者さんに入院していただきます。ご家族の面会は可能ですが、感染を予防するためにいくつかの注意が必要になります。詳しくは、担当看護師にご相談ください。

私たち看護師は、患者さんとそのご家族の方々が満足できる看護の提供を目指しております。



無菌病棟

病院薬剤師の業務

薬剤部

【薬剤師とは？】

薬剤師法の中では、「調剤、医薬品の供給その他、薬事衛生をつかさどることによって公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保するものとする」と、規定されています。

病気の治療や予防、健康の維持などから、薬は私たちの生活に欠かせないものになっています。病気や怪我で、病院や診療所から薬をもらったり、体調がすぐれないときに病院にかかるほどではないので町の薬局・薬店で大衆薬やサプリメントを購入したりする経験は誰にでもあると思います。

こうした薬は製薬企業で作られ、医療機関や町の薬局・薬店を経由して皆様手に届きますが、その全ての過程において専門的な立場でお薬をチェックしているのが薬剤師です。

種々の過程の中で、病院において業務を行っている薬剤師を病院薬剤師と一般的に呼ばれています。

【サテライトファーマシー】

「サテライトファーマシー」という言葉を聞いたことがありますか？「サテライト：satellite」とは衛星、「ファーマシー：pharmacy」とは薬局のことを意味します。つまり「主となる薬剤部から離れて存在する薬局（例：本店と支店）」と考えていただければ良いかと思います。

当院の主となる薬剤部はD棟1階にあり、サテライトファーマシー（以下：サテライト）は全病棟に設置されています。そこには専属病棟薬剤師が常駐しており、病棟業務（後に説明）を行っています。このシステムは医師、看護師、および、その他のスタッフと薬剤師の距離が極めて近くなり、医療チームの一員となって全ての患者さんにより安全で有効的な治療を提供することが出来るようになりました。

また、救命・救急外来部門においてもサテライト活動を実施し、前回の病院ニュースで紹介した通り包括的がんセンター及び通院治療センターのサテライトにおいては抗がん剤の調製等を行っています。

このようなサテライトを入院、外来ともに設置することで質の高い医療を提供しています。

【病棟薬剤師の業務】

主な業務としては以下のようなものがあげられます。

- ① 投与禁忌薬剤、アレルギー歴の有無を確認
- ② 医師の処方する薬の有効性、安全性を考慮し個々の患者さんの状態に見合った薬剤の選択、使用を助言（医薬品の適正使用）
- ③ 薬による副作用、飲み合わせによる相互作用のチェック
- ④ 病棟で患者さん本人、御家族への薬の説明（服薬指導）
- ⑤ 薬の用法、用量の説明及び指導、服薬状況等をまとめた

記録の作成（薬剤管理指導記録）

- ⑥ 配合変化を含めた注射薬の管理（医薬品の管理）
- ⑦ 医師、看護師、その他スタッフへの薬剤情報提供
- ⑧ 抗がん剤の無菌的調製
- ⑨ 血液中の薬の濃度から薬剤の有効性を判断した投与量の設計（TDM）



【救命救急薬剤師】

当院では開院初日より救命救急センター（以下、センターと略）に24時間体制で薬剤師を常駐しています。センターは、特定の診療科がなく、様々な疾患をもった患者さんが搬送されてきます。さらに搬送された患者さんは病状が安定しない劇的な変化の中での治療を余儀なくされます。まさに1分1秒を争うような現場で薬剤師として、患者さんの服薬歴、アレルギー歴等を迅速に把握し、医師、看護師などのスタッフに情報提供することでスムーズな治療を開始できるようになりました。

このように、救命救急チームの一員として患者さんの治療に専門性を発揮し全力で取り組める体制となりました。そして、救命処置を施した後、それぞれの診療科に入院になる場合はこれらの情報をサテライトの薬剤師に伝えることにより円滑な病棟業務へと繋がっていきます。

将来的には救急現場での注射薬の調製、血液中の薬物濃度測定など薬剤師の専門性をより発揮できるような体制を構築し医師、看護師、その他救命スタッフから信頼され頼られる薬剤師像を目指していきたいと考えております。

【最後に】

当院の基本理念にもありますが「患者中心主義」のもと薬剤師としてより安心して安全な満足度の高い医療の提供を出来るように薬剤師は一丸となって日々努力しております。

「薬の専門家」である我々薬剤師は個々の患者さんに適切なお薬の説明をわかりやすく行い、お薬の有効性と安全性、そして重要事項をしっかりと理解していただき、その結果、安心して服用していただくことが我々の使命であると認識して日々の業務にあたっています。



救命救急放射線部門のご紹介

中央放射線部

救命救急放射線部門は、その名の通り救命救急センターに隣接されている、B棟1階の放射線検査室です。配置されている装置としましては、一般X線撮影（レントゲン撮影）装置、64列マルチスライスCT装置、デジタルX線TV装置、デジタル血管撮影装置、移動型X線撮影装置となります。

これらの装置どれもが最新鋭の装置で、救急搬送されてきた患者さんを速やかに検査を行い、診療に必要な正確な画像を提供する事が可能となっています。

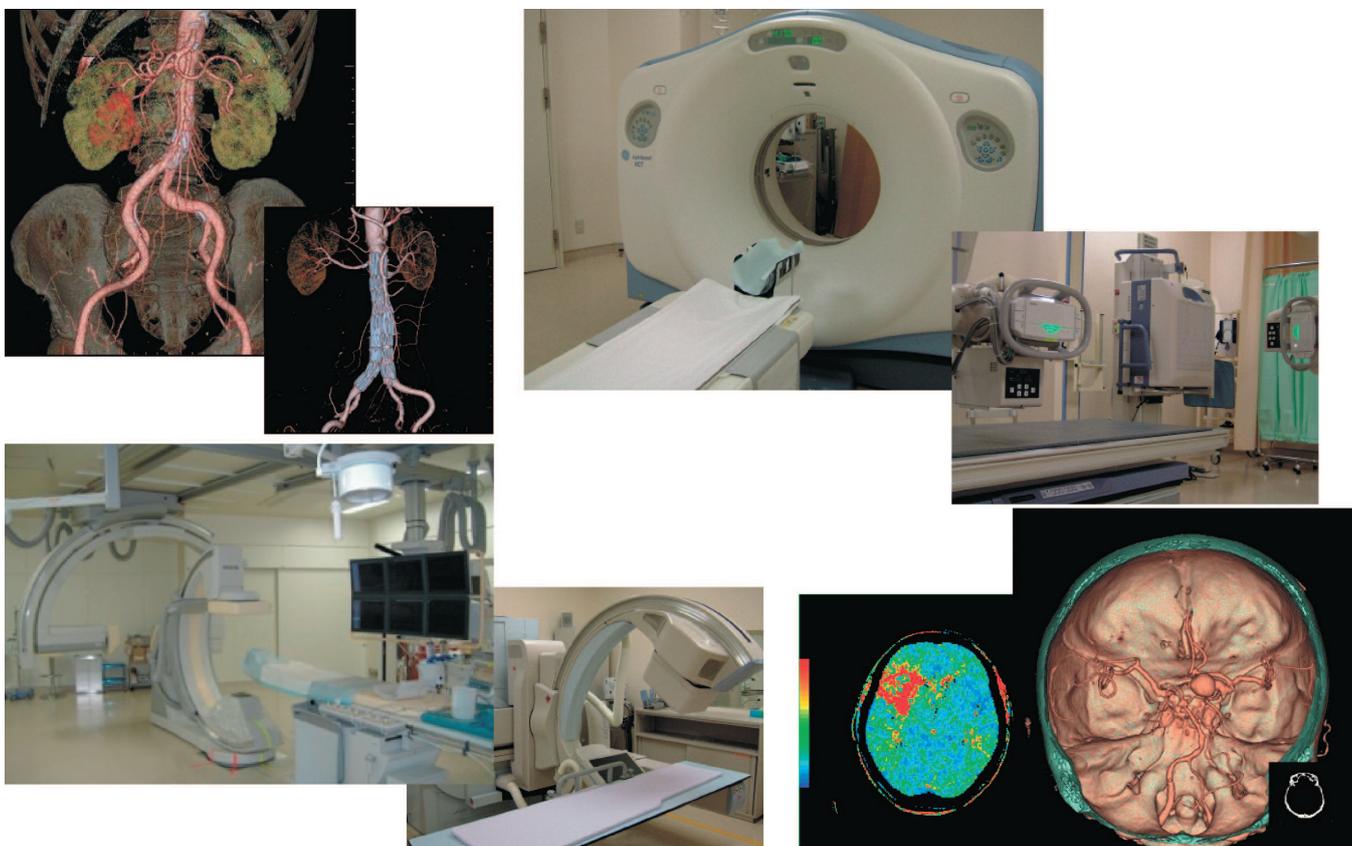
装置を少しご紹介します。まず、64列マルチスライスCT装置ですが、従来の装置より撮影時間が大幅に短縮されました。このことにより、全身の撮影などに非常に役立っています。従来30秒以上息止めをしなければ鮮明な画像の抽出が困難だった胸部～腹部～骨盤部領域の検査に対し、わずか5秒前後の一回の息止めですむなど、患者さんの負担も大幅に軽減され、なおかつ被ばくも低減されています。また、造影剤を使用しますが頭の血管像、大動脈の血管像などを三次元画像で表示することが可能となっています。血管検査以外にも、骨、関節など整形外科領

域でも広く利用され、立体的な構造を理解するのに役立っています。

次にデジタルX線TV装置です。こちらは、おもに骨折患者さんの整復術や、消化管造影、各種チューブ類の挿入などに使用します。デジタル化により低被ばくでの検査が可能となり、なおかつ鮮明な画像が映し出されるので、先生方にも大変好評です。

前号（2号）でも、少しご紹介しましたが、デジタル血管撮影装置です。救命救急血管撮影室には、回転DSA機能を搭載した装置が導入されました。全身の血管撮影を行うことができ、くも膜下出血等の脳血管疾患の患者さんに対する脳血管造影検査などを多くおこなっています。検査だけでなく血管内治療なども行います。例えば脳動脈瘤のコイル塞栓術や頸部のステント留置術なども数多く行っています。

この様に、救命救急放射線部門では各種検査が可能となっており救命救急で要求される時間短縮に大いに役立っていると思われます。我々スタッフも患者さんの為に、診療に役立つ画像を提供していこうと日々努力しています。



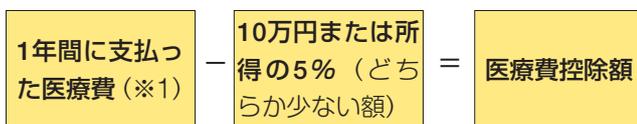
医療費控除について

総合相談センター

年末から増えてくる相談内容の一つに「医療費控除」があります。入院や通院による医療費だけでも支払いが大変なところに、おむつや日用品などの出費がかさむことも多いのではないのでしょうか。そこで、今回は「医療費控除」についてご説明します。

医療費控除とは

1年間(1月1日～12月31日)に支払った医療費が10万円以上になった場合に、申告をすることで税金を還付してもらえるものです。



※1：保険金等で補てんされる金額は差し引かれます。

対象になる人は？

生計を一にする親族(控除対象配偶者や扶養親族だけでなく、日常の生活費を共にしている親族を指します。)

対象となるものは？

- ・病気やけがのために病院で支払った診療・治療の費用
- ・治療または療養に必要な医薬品の購入費
- ・通院時にかかった交通費
- ・介護保険サービス使用時の自己負担分
- ・おむつ代 など。

申請はどこでしたらよい？

窓口は住所地の税務署となります。

※おむつの医療費控除について

担当医に「おむつ使用証明書」を記入してもらい、領収書と共に申告を行ってください。(ただし、介護保険の要介護認定を受けており、2年目以降申請される方は介護保険の主治医意見書で代用できます。)

※詳しくは住所地の税務署にお問い合わせください。

在宅支援サービスについて

がん相談支援センター

がんの放射線治療や抗がん剤治療は、外来で行う場合が多くなっています。今回は、在宅での療養生活や通院に役立つ地域のサービスについてご紹介します。

- ・ **通院のサポート**
NPO法人(特定非営利活動法人)、民間の移送業者(車いすやストレッチャー完備)
- ・ **電動ベッド、マットレス、車いす、歩行器、杖、ポータブルトイレ、吸引器等の医療福祉機器の購入やレンタル**
社会福祉協議会(ベッド、車いすの貸出)、民間業者
- ・ **病状(痛みの緩和、処置を必要とする状態など)の観察と助言、及び実施**
- ・ **身体の清拭、洗髪、入浴の介助**
- ・ **呼吸、体温、脈、血圧などの観察と助言**
- ・ **床ずれの予防と手当て**
- ・ **在宅酸素、持続点滴、経管栄養、胃瘻(PEG)、IVH(中心静脈栄養)等の管理**
- ・ **膀胱カテーテル、人工肛門(ストーマ)等の交換と管理**
- ・ **吸入、吸引の実施**
- ・ **訪問リハビリテーション**
- ・ **医師の指示による服薬管理**
訪問看護ステーション
- ・ **食事、排泄、入浴、着替え等の介助**
訪問介護(ヘルパー)ステーション

- ・ **買い物、掃除や洗濯等の家事援助サービス**
社会福祉協議会、NPO法人(特定非営利活動法人)

- ・ **食事のサービス**

社会福祉協議会、民間の配食サービス業者

- ・ **玄関、廊下、階段、トイレ、浴室に手すりを付けたい、段差を無くしたい**

民間業者(介護保険サービス対象者は住宅改修費が上限20万円まで支給される)

上記の在宅支援サービスは、介護保険制度や支援費制度によって利用できるものもあります。各サービスの内容や費用、事業者の紹介については、がん相談支援センターにご相談ください。また、がん治療の経過をとおして、患者さんだけでなく、ご家族にも介護や精神的な負担がかかってくる可能性があります。患者さんの辛い状態を間近で見ながら、どのように支えたらよいかかわからず不安になる時もあるかもしれません。このような時には、どうぞ遠慮なく、がん相談支援センターにお声掛けください。

相談センターをご利用いただくには…

◇ 総合相談センター、がん相談支援センターで相談日時をご予約ください。

TEL.042-984-4106 (総合相談センター直通)

TEL.042-984-4329 (がん相談支援センター直通)

※ お急ぎの場合は直接おいで下さい。

皆様からのご意見と当院の対応

診療サービス委員会

ご意見：コンシェルジュとは？

当院の対応：フランス語でコンシェルジュは「大きな建物、重要な建物の門番」という意味を持っていますが、現在ではホテルの宿泊客に対する「総合案内」、「総合世話係」、「よろず相談承り係」というような職務を担当する者として使われています。コンシェルジュはサービスの1つです。最近ではマスコミでも「医療コンシェルジュ」という言葉が使われるようになってきています。

当センターでは患者中心主義をあげており、その実践のためにコンシェルジュを配置しております。



ご意見：薬を飲む水がない。

当院の対応：C棟1階総合コンシェルジュの裏に給水器を設置致しました。ご利用ください。



これからも病院機能の向上及び患者サービスに努めてまいります。ご意見ありがとうございました。

臨床試験支援センターのご紹介

臨床試験支援センター

センター長 脳・脊髄腫瘍科教授 西川 亮

臨床試験支援センターは13名で構成されています。医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、臨床工学技士、事務員という異なる職種のメンバーが集まった、ややごちゃまじりとした所帯ですが、病院全体の「治験」をサポートするという重要な仕事をしています。

治験とは何でしょうか？

「治験（ちけん）」は新薬を厚生労働省に認可してもらう為の手続きです。認可される前の医薬品候補を、実際に患者さんや、時には健康な人に投与してみて、安全性（副作用の有無、種類、程度等）と有効性（効果の有無や程度、最も効果的な投与量や投与方法）を確かめるための試験です。新薬開発のための「治療を兼ねた試験」のことを略して「治験」といいます。

治験は医学の進歩の為に欠く事の出来ない重要な試験です。医学の進歩にとって重要であると同時に、参加される患者の皆様にとってもメリットがあります。最新の治療法を受ける事が出来る、費用の補助が受けられる、診察が優先的に受けられる、詳しい診察と検査が受けられる、といった点に加えて、特定の看護師あるいは薬剤師が専用の担当者となります。この担当者は治験の説明、病状の問診、検査の説明から心のケアまで気を配るとともに、治験に関わる医師、薬剤部、検査部、放射線部、事務などの相互の調整にも当たります。「治験」を円滑に実施する為には彼らの存在は不可欠であるといっても過言ではありません。この担当者をCRC（シーアールシー、clinical research coordinatorの略）と呼びますが、彼らが所属



するのが臨床試験支援センターです。臨床試験支援センターにはCRCの他にDM（ディーエム、data managerの略）と呼ばれる職種も存在します。DMは「治験」において収集されるデータをつじつまが合っている事を確認し、データ全体を管理します。DMはまだ新しい職種ですが、質の高い「治験」を行うには不可欠の存在となりつつあり、今後益々その活躍が望まれています。

今後の方向性

現在、当院では約30件の治験、約70件の臨床研究（新薬の認可を目的としない試験）、約30件の製造販売後調査（認可後の副作用や効果に関する逃散）を実施しています。当院は国内有数の抗癌剤第Ⅰ相試験実施施設です。第Ⅰ相試験とは、薬剤の血液中の濃度の推移や副作用を検討する為の治験の最初の段階の試験で、極めて高い水準の厳密な診療が要求され、限られた施設でのみ行なわれるものです。また、EDC（イーディーシー、Electrical Data

Capturing：電子的臨床検査情報収集システム）や英語の症例報告書対応の国際共同治験も実施しています。今後は、当院に隣接している埼玉医科大学ゲノム医学研究センターと協力し合っ、臨床研究とゲノム医学研究を結びつけた「トランスレーショナルリサーチ」を目指した研究体制も整えていく予定です。「トランスレーショナルリサーチ」は最新の基礎研究の成果を臨床に還元していくため方法を模索する研究で、世界中で注目されている分野ですから、臨床研究の件数は確実に増加していくものと考えています。

臨床試験支援センターでは、より一層質の高い臨床試

験を行うべく、人員の確保やシステムの整備に努力を続けていく所存です。そして、この質の高い臨床試験は、医師と臨床試験支援センターの人間だけでは決してできるものではありません。まずは患者の皆様の理解と協力が必要です。そして埼玉医科大学国際医療センター全組織の協力も仰がなくてはなりません。全ての皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

当院で行なわれている治験についてはホームページ（診療部門のご案内→共通部門→臨床試験支援センター）をご覧ください。

問い合わせは電話：042-984-4523まで。

がん看護専門看護師、がん化学療法看護認定看護師のご紹介

森田 公美子

私は日本看護協会のがん看護専門看護師とがん化学療法看護認定看護師の資格を有する看護師で、現在はE棟2階外来・通院治療センターで勤務しています。

がんは、患者さんご家族に、治療の選択や抗がん剤などの治療に伴う副作用への対処、経済面、これまでの社会的役割を十分に継続できなくなるなど、不安や悩み、心配ごとを抱かせ、ときにはからだの痛みを生じさせる病気であると思います。私は、患者さんご家族の不安や悩み、心配ごとやからだの痛みが少しでも軽減、緩和するよう、お役に立てればと思っています。

相談ごとや誰かに話を聞いてもらいたいなどのお気持ち

がありましたら、遠慮なく気軽に声をかけていただければと思っています。またご希望があれば、他の専門職者やがん相談支援センターへの調整もさせていただきます。

どうぞよろしく願いいたします。

お問い合わせ：E棟2階外来・通院治療センター
TEL：042-984-4338



緩和ケア認定看護師のご紹介

塩井 厚子

埼玉医科大学病院に勤務しながら緩和ケア認定看護師の資格を得て、現在、国際医療センターで働いています。患者さんご家族のお役に立てるように、また看護師の支援ができるように努力しています。

～認定看護師について～

1997年に日本看護協会により「特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践ができ、看護現場における看護ケアの広がりや質の向上をはかる」ことを目的として、認定制度ができました。現在、当院では、緩和ケア、がん化学療法看護、乳がん看護、救急看護、小児救急看護、感染管理の認定を受けた看護師とさらにより高度の教育を受けたがん専門看護師も働いています。

～緩和ケア認定看護師について～

ホスピス、緩和ケア病棟だけでなく、一般病棟および在宅におけるがん患者さんご家族への支援をするために、必要な知識と技術を学び、患者さんができるだけ安楽な生活が送れるように支援することを目的としています。

～私の仕事、役割について～

◇緩和ケアチームの一員として

当院では開院と同時に「緩和ケアチーム」が設置され、

各病棟を回診し、患者さんご家族の相談に応じています。緩和ケアチームは、「がんで入院している患者さんの苦痛をなるべく軽減し、患者さんご家族が、より豊かに生活を送れること」を目的としています。

緩和ケアチームへの依頼、または詳しく知りたい方は主治医、病棟看護師にお話し下さい。

◇がん相談支援センターの一員として

病気をすると身体のことばかりではなく、さまざまな心配事が出てきます。がん患者さんご家族のために、心配事の相談をお受けする相談室です。ソーシャルワーカーと協力して、相談を受けています。

◇包括的がん外来

外来担当看護師と協力して、患者さんご家族が不安なく外来受診ができるように、また、自宅で療養することの問題が少しでも改善されるようお手伝いしています。



当センターにおける感染対策の取り組みとバンコマイシン耐性腸球菌 (VRE) の検出について

感染対策室

室長 光武耕太郎

感染対策室は、国際医療センターにおける患者さんや職員における感染症に関する業務を担当しています。

当センターには、心臓病やがん、脳卒中、外傷その他の重篤な患者さんが入院しておられます。一般的に、病院は種々の基礎疾患を持った患者さんを収容し、手術が行われたり抗癌化学療法が行われたりしますので、合併症として市中一般ではみられない病原菌による感染症が起こることがあります。安全・安心な医療を提供するためには、合併症としての感染症をゼロにすることは不可能とはいえ、最小限にする努力をしなければなりません。感染対策室は、医療安全対策室とも連携し活動を行っています。具体的には、病棟のラウンドや、耐性菌のサーベイランス。感染対策に関する職員の教育を担当します。さて、4月センター開院と時期を同じくしてバンコマイシン耐性腸球菌 (VRE) が検出されましたが、この件について経過と現状について報告します。

3月の下旬に、埼玉医科大学病院でVREが検出されました。患者さんに使っていたカテーテルの先端から検出されたのですが、患者さんはカテーテル感染を発症しておらず、偶然に定着状態で見つかりました。このVREは、Van Aというタイプに分類され、これまで埼玉医科大学病院でいちども検出されたことはありません。VREはMRSAと同様、無症状で保菌することがあるため、便のスクリーニング検査（培養）をしないとこのような保菌者は発見できません。複数の患者さんからスクリーニング検査でVREが検出されたため、感染対策の観点から、範囲を広げてスクリーニングが行われました。その結果センターに転院された患者さんから、10名を超える保菌者がみつかりました。

VRE自体病原性は高くないため、保菌状態ではなんら症状を呈することはありませんし、今回大学病院も含めて、全例保菌状態でありこれまで感染症を発症された方はありません。しかし、非常に伝播力が強いので、コン

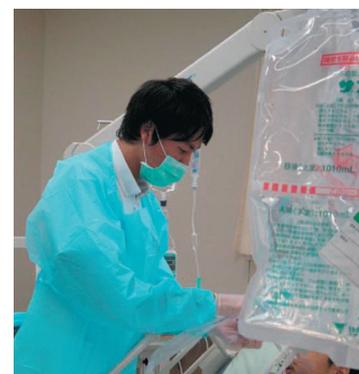
トロールは難しいとされます。

国立感染症研究所から、感染症学の専門家にきていただき行政の協力のもと種々の対策をとりました。保菌者の個室収容やコホーティングと、医療従事者の接触予防策の徹底により6月からは新規患者の検出は見られておりません。また、保菌した状態で亡くなられた患者さんもおられました。8月に行われた外部調査委員会における検討で、感染症はみられず死亡に関連した症例はないと判断されました。

さて、今回のVREはどこからきたのでしょうか？専門家によれば、外部から保菌者が入った（持ち込まれたと）考えるのが妥当だが、どこからきたのかはわからないとのことでした。国内では昨年、約80例のVRE感染症患者（単なる保菌でなく発症した患者）が報告されており、埼玉県でも毎年数例の発症者の報告があります。このような状況で、症状のない保菌者がどれくらいいるのか、疫学情報は乏しく実態はわかっていません。

VRE対策は、医療従事者だけでなく、患者さんにも手指衛生を徹底してもらう必要があるなど、対応が難しい点もあります。

今後とも、皆様のご理解とご協力を得ながら、病院の感染対策に努めていきたいと考えております。



第1回ロビーコンサート が開催されました

9月22日（土）、国際医療センター正面玄関で、第1回ロビーコンサートが開催されました。入院患者さんをはじめ、たくさんの方にお集まりいただき、大変ご好評をいただきました。

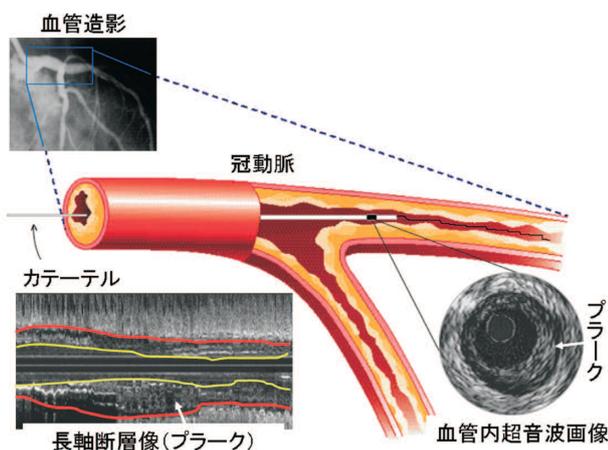


インドよりの研修医師をお迎えして

心臓病センター

心臓血管インターベンション部門教授 小宮山 伸之

心臓病センター心臓血管インターベンション部門では、狭心症や心筋梗塞の原因となる冠動脈閉塞に対するカテーテル治療を行っております。それに際して従来は造影剤を用いた血管撮影のみで冠動脈の病変を評価していましたが、最近はいろいろな器材を用いた治療（例えば、金網状の筒の形をしたステント挿入やドリル状の高速回転アテレクトミーなど）ができるようになり、器材の選択決定や治療結果の確認のために血管壁の情報をより詳しく得ることが必要となりました。そこで特に日本で普及しているのが血管内超音波診断法です。これは先端に超音波発振子が装着された直径約1 mmのカテーテルを血管内に挿し入れて血管の断面画像をその場で見ることもできるものです（図に示します）。



従来の造影剤による血管撮影法では血液が流れる部分の情報しか得られませんでした。血管内超音波法では血管全体やその周囲の構造をみることができ、プラークとよばれる動脈硬化病変の拡がりや計測したり、心筋梗塞の原因となる脂肪に富んだプラークを見つけたりすることが可能となりました。当部門には現在世界で使用されているなかでも最新鋭の3機種の内視鏡装置が備えられており、治療成績の向上に貢献しています。また、私たちは血管内超音波法を用いた臨床研究も多く行っており、その成果を国際的な学術雑誌に発表してきました。このたび、私たちの論文を読んだインド人の医師から「血管内超音波法」について研修したいという連絡を直接いただき今回の研修が実現しました。

その医師は、Dr. Shamanna Seshadri Iyengarでインド共和国Bangalore市にあるSt. John医科大学教授・同大学病院心臓内科部長という肩書きの経験豊富な臨床医で、国際医療センターには去る7月10日から2週間滞在されました。ちなみにBangaloreはインド南部の内陸に位置し、インド第3の人口を有するIT産業で発展中の都市だそうです。Dr. Iyengarには当初、臨床修練外国人医師

として臨床研修を行っていただく予定でしたが、その資格申請には日本での長期滞在が必要であるためにそれが叶わず、見学生として研修していただきました。Dr. Iyengarは毎朝のCCU回診・入院報告カンファレンスに参加され、個々の患者さんの治療方針について私たちと意見交換をしました。心臓血管カテーテル室では冠動脈や末梢動脈閉塞のカテーテル治療を見学されるとともに本来の研修目的である血管内超音波検査について、当部門にある3つの装置やカテーテルの操作法を学ばれ、実際の症例から得られた画像の解釈などについて指導を受けていました。また、彼はSt. John医科大学病院で冠動脈病変のカテーテル治療に従事しており、個々の症例における治療法の詳細について有意義な討論ができました。そのような研修の合間にDr. Iyengarにはおもに心臓内科の若手医師、研修医および臨床実習中の医学部5年生を対象に、インドの医療事情と高血圧症の成因と治療の実際について講演をしていただきました。特にインドにおける高血圧症の治療では、日本で用いられるのと同様の薬剤のほかに、アユールベダなどの古典的療法も行われているという話には興味深いものがありました。

一方、Dr. Iyengarの滞在生活ですが、病院総務課の御配慮により教員研究棟6階の宿泊施設の利用者第1号となりました。自室でインターネットに接続することができ快適だったようです。問題は食事でした。彼は宗教上の理由から菜食主義者であり、肉類は鶏肉以外食さないということでした。テレサホールの厨房の方にご配慮いただきましたが、なかなか口に合わないようで、毛呂山のインドレストランにたびたびお連れしました。休日には定番のはとバスによる東京観光に参加し、英語のガイドに感心しておりました。とても短期間の研修でしたが、Dr. Iyengarには大変満足され帰国後早速お礼と再来日をしたいというメールをいただきました。国際医療センターにはその名の通りに外国医療関係者のトレーニングや共同研究のための国際交流を行うという設立理念があります。

Dr. Iyengarが初めての研修医師でしたが、さらに受け入れ態勢を整え、今後も多くの外国人医師を招くことができるように努力したいと思っております。



「第16回世界移植者スポーツ大会」に参加して 難治性心不全治療センター

移植コーディネーター 土屋 美代子

世界移植者スポーツ大会は、イギリスの移植医モーリス・スラパック博士によって1978年イギリス・ポーツマスで以下の目的で始められました。

- (1) 臓器を提供してくださった方への感謝を示す。
- (2) 臓器移植を受けたことにより普通の人と変わらない生活ができることを表現する。
- (3) 同じ病で苦しむ人達に大きな希望を示す。
- (4) より多くの人達に臓器提供を呼びかける

第2回目からイギリス以外の国も参加するようになり2年ごとに国を変え開催されています。現在では、世界で80を超える国と地域が世界移植者スポーツ大会連盟(WTGF)に加盟し、参加者が1000人を超える大きな大会となりました。

当施設では、現在10数名の心臓移植後の患者さんが通院されております。「移植後の元気な姿をみてもらいたい。臓器を提供して下さった方に感謝の意を示したい。他の移植後の患者さん達との交流を持ちたい。」等の目的により、2005年より全国移植者スポーツ大会に参加し、バドミントンやゴルフなどの競技に参加するようになりました。バドミントンでは惜しくも入賞は果たしていませんが、ゴルフでは2大会連続金メダルを獲得する事ができました。そこで今回、世界での金メダルを目指して、市川毅氏が「第16回世界移植者スポーツ大会」(開催地：バンコク)に参加してきました。



ゴルフの大会当日は、朝からスコールで、降りしきる雨の中大会が始まりました。昼ごろにはスコールは止みましたが、今度はジッとしていても、汗が吹き出るくらいに気温は上昇・・・という悪条件にも関わらず、グロスで金メダル、ネット(ハンディキャップ)で銀メダルを獲得しました。300ヤードを飛ばす彼に、他国の参加者は「パワーマン!!」と驚いていました。そんな、パワフルな市川氏ですが、移植を受ける前は、人工心臓の補助がなければ、歩くこともできませんでした。



『今回、金メダルを獲得する事ができ、素直に嬉しい。そして、移植後の元気な姿を見せる事ができて良かった。移植をして何が良かったか?変わったか?って良く聞かれますが、シンプルに「今、生きている」という事が嬉しい。移植をしていなかったら、今の自分はいないと思うし、喉元過ぎれば辛かった事は忘れがちになるけど、移植をした頃を思い出し、臓器を提供してくれた人やその家族、自分が移植を受けるために協力してくれた沢山の人達に、常日頃感謝しながら、第二の人生を一日一日すごく大事に楽しんでいる。移植をしたらこんなに元気になるんだ、という事を、多くの人達に知ってもらいたい。いろんな事にチャレンジして、移植後でも出来る事をどんどん増やして行きたい。それが、移植を待っている人達の励みになれば・・・と思う。次回の世界大会でも金メダルを獲ってきます!!』と、市川氏。



世界移植者スポーツ大会へ参加することにより、移植医療への関心と理解を高め、臓器提供者とそのご家族に移植者が常に感謝し、頂いた臓器を大切に、生きる喜びを感じながら一日一日を生きていることを知って頂き、その思いが伝わればと思います。

予約センターからのお願い

- ① 当センターは予約制を実施しております。
- ② 初めて当センターを受診する方は、予約センターで初診予約を取得して頂きます。
- ③ 予約を取得できる方は、『他の医療機関からの紹介状をお持ちの方』、又は、『包括的がんセンター、心臓病センター、脳卒中センターの受診を希望する方』のみです。
- ④ 上記③に該当する方で予約なしで来院された方の診察は予約の方の後になりますので、長時間お待ち頂くこともあります。ご理解ください。
- ⑤ 再診（次回の診察）予約は、診察終了時に担当医と相談して決めて頂きます。予約日時は、領収書に添付されている予約票で確認することができます。
- ⑥ 現時点では予約の変更は診察日時のみ受け付けており、検査・レントゲン等の検査日時の変更は受けておりません。当初の予約日時で検査を受けて頂くか、検査予約をキャンセルして頂き次回診察時に担当医と相談のうえ検査予約を再取得して頂くこととなりますのでご注意ください。

なお、予約変更は、診療科によりかなり先になる場合があります。その場合は治療計画の問題もありますので、担当医と直接ご相談ください。

- ⑦ 予約センターは時間帯により、電話がかかりにくくなっております。ご迷惑をおかけしていることをお詫びいたします。

☎予約センター（平日8:30~17:00）
TEL：042-984-4411

※日曜・祝祭日の受付業務は行っておりません。

ご面会の皆様へ

当センターには、心臓病やがん、脳卒中、外傷その他の重篤な患者さんが入院しておられます。

ご面会の方で、発熱や咳、下痢などの症状のある方は入院中の患者さんに感染することがありますので、面会をご遠慮ください。また、**特にお子さまにつきましては、麻疹・水痘・おたふくなどの流行性疾患に感染していることもありますので、患者さんへの感染、また患者さんからご面会の方への感染防止のためにも、小学生以下のお子さまの面会をご遠慮いただいております。**

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

〈交通案内〉

Access

○ 電車を利用される場合

池袋駅（東武東上線43分）坂戸駅（東武越生線13分）東毛呂駅（路線バス約15分）

池袋駅（東武東上線30分）川越駅（JR川越線25分）高麗川駅（路線バス約10分）

大宮駅（JR埼京線17分）川越駅（JR川越線25分）高麗川駅（路線バス約10分）

八王子駅（JR八高線13分）拝島駅（JR八高線30分）高麗川駅（路線バス約10分）

○ 車を利用される場合

圏央道 圏央鶴ヶ島インター・関越自動車道鶴ヶ島インターより

10Km（約15分）、県道30号（飯能寄居線）沿い

圏央道 狭山・日高インターより10Km（約20分）、

県道30号（飯能寄居線）沿い

住所：〒350-1298

埼玉県日高市山根1397-1

TEL：042-984-4111（番号案内）

埼玉医科大学国際医療センターニュース

October 2007 第3号【院内配布用】

編集・発行 埼玉医科大学国際医療センター総務課

TEL：042-984-4128

FAX：042-984-0432

発行責任者 尾本 良三

発行日 平成19年10月30日

◆表紙写真：川井 信孝（造血管腫瘍科准教授）撮影◆

※本紙記載の写真・記事の無断転載および、複写を禁じます。

